甑島の旅 2024

2024 年 9 月

旅のチカラ研究所　植木圭二

9 月の下旬、私と旅友たちは鹿児島県の甑島（こしきしま）を巡ってきた。甑島は薩摩川内港の西方沖にあり、あまり知られていない島だが、是非この島での体験を紹介したいと本稿書いた。

■甑島に行く

秘島つまり辺ぴな離島をこよなく愛する私と旅友たちは“秘島ハンター”を名乗っており、皆酒好きだ。その秘島ハンターたちは鹿児島県薩摩川内市の港から西に約 25km はなれた甑島を目指し高速船に乗った。そして約 70 分後、下甑島の長浜港に降り立った。

甑島と一括りで扱うが、実は 3 つの有人島（上甑島、中甑島、下甑島）と多数の無人島からなる列島で、3 島合わせた人口は約 4600 人になる。私たちが降り立った下甑島は最も南にあり、人口は約 2200 人、面積は一番大きくて八丈島とほぼ同サイズになる。上甑島は下甑島よりやや小さく、中甑島は上甑島の 1/6 しかない。

下甑島の診療所に実際勤務していた医師がドラマ「Dr.コトー診療所」のモデルとして知られており、その意味では甑島は離島へき地を代表する島と言っていいかもしれない。ちなみにドラマの撮影は沖縄の与那国島で行われているので、この 2 島を混同している人も多い。

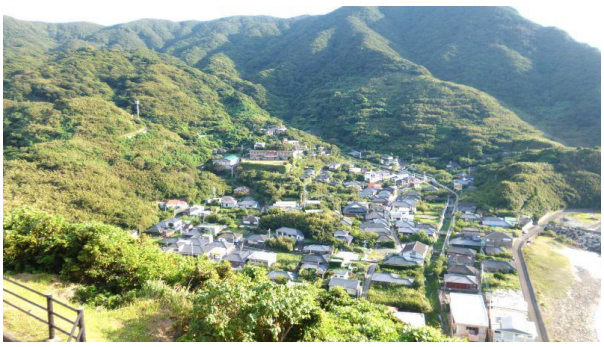
■期待と落胆、偶然と感動

私たちはレンタカーを借りて、まずは下甑島を巡る。

下甑島のパンフレットでは必ず登場する「ナポレオン岩」を訪れるが、その岩はとてもナポレオンの顔には見えない。私も含め秘島ハンターたちの感想は「これがナポレオン？」と何ともつれない。

秘島ハンターたちは岩よりも眼下に見える集落の方に興味があるようで、「人がいる」とか「車が 1 台動いている」などと失礼なことを言っている。確かに何もない集落なので秘島に来た実感が湧いてくる。

【ナポレオン岩】



【ナポレオン岩近くの集落】

次は最南端の「釣掛埼灯台」に訪れると、ちょうど夕日が沈む時間なので、見事な夕日鑑賞になる。私たち以外には誰もおらず、波の音が聞こえてくるような静けさの中、ゆっくりと日が沈む様は感動的と言うしかないだろう。

私も今までにいろいろな場所で夕日を見ているが、秘島の先端の洛陽は格別な思いにしたってしまう。

【釣掛埼灯台に沈む夕日】

私の持論で「期待と落胆、偶然と感動」というのがある。美しい写真や映像を見て、それを期待して現地に行くと、往々にして裏切る結果になる。その理由はそれらの写真のほとんどはプロが撮ったものだから、感動的な写真になるのは当たり前だろう。私はそれを「期待と落胆」と呼んでおり、ナポレオン岩がまさしくそうだった。

逆に現地に行って、予想や期待を超えた時に感動が生まれる。予期せぬこと、つまり偶然遭遇した感動ほど増幅される。それが「偶然と感動」で、釣掛埼灯台の夕日がまさにそれにあたる。

旅は「期待と落胆」と「偶然と感動」が繰り返される。だから面白いのかもしれない。

■ユニークな宿

甑島の初日は宿屋「○△□（まるさんかくしかく）」というユニークな名前の宿に泊まる。それは名前だけでなく建物もユニークで、2 階建てのアパートがそのまま宿泊棟になっている。まるで昔の刑事ドラマで犯人が隠れているアパートといったところだろう。

中に入ると 2LDK の部屋にベッドがあり、生活できるような設備がそろっている。近くに食料品店もあるから自炊もできるが、私たちは島で獲れた新鮮な魚を食べたいので自炊する気はない。いや自炊しようにも食料品店には魚を置いていない。島では魚は買うものではないのだろう。

宿泊棟の隣の建物の 2 階に食事処があり、ここで宿の女将さんが作った食事を食べることができる。宿を予約する時に電話で女将さんが「天候不良で漁に出られない日は刺身が出せませんが、その時は焼き魚などになりますが、いいですか」と言っていた。

その言葉に私はむしろ感動したのでこの宿を予約した。理由は、夕食に出てくる刺身はその日に獲れた新鮮な魚だけで、漁に出られなければそれが島の生活だと割り切ることができる。

【○△□の外観】

【○△□の食事処】

本日私たちは高速船で来島したので、海は時化（しけ）ていない。従って食卓には本日獲れた魚の刺身が並んでいる。女将さんに魚の名前を聞くと「スジアラ、カンパチ、甘エビ、イカ」だと教えてくれる。ただし甘エビは甘エビでも、甑島の甘エビはタカエビと呼ばれており、甘エビの一種だが少し大きめで身が締まっていて美味い。イカはアオリイカで、釣り人は甑島のことをアオリイカの聖地と呼ぶのでこちらも美味い。どちらも今が旬で、実に良い時に来島した。

【○△□の刺身　そのほかに煮物や貝などの小鉢が何点かある】

宿の主人がすぐ近くの酒蔵で造っている「五郎」という焼酎を出してくれた。彼は「これは内緒にしてくださいね。まだ市場に流通していないのですから」と小声で言いながら置いていった。

令和 6 年 9 月 23 日と捺印されており、本日は 24 日なので、昨日できたことになる。飲んでみると実に飲みやすい焼酎で、もちろん美味い。

■絶景が続く

翌日も島内巡りで「瀬尾の滝」にやって来る。この滝は三段滝で 3 つ合わせると 55m にもなる。実は秘島ハンターの中に滝オタクがいて、この滝を勧めてくれた。近くに行くと一番下の滝しか見えないが、それでもかなりの迫力がある。

甑島の有人島の 3 島は実は橋で繋がっている。下甑島と中甑島を結ぶ全長 1500m の甑大橋が 2020 年開通し、これによって 3 島は橋でつながった。そこから観光立島するはずだったが、コロナのために頓挫した。そしてそろそろこの島が注目を浴びるようになるはずだ。

それゆえだろうか新しい甑大橋を臨む「鳥の巣山展望所」からの景色が島のパンフレットに載っている。

私たちもその甑大橋を見るために鳥の巣山展望所にやってきた。そしてしばらくの間、橋を見ていたが、車が 1 台も通らない。

観光客はともかくも、もともと住んでいた島民の交流はあまりないのかもしれない。そしてようやく車が 1 台来たので思わずシャッターを押した。

【鳥の巣山展望所から甑大橋を臨む】

その近くの「夜萩円山公園」も断崖を臨むビューポイントになっており、こちらもなかなか見応えがある。

■天の橋立を超えるか

甑大橋を渡り、中甑島そして上甑島に入る。上甑島で最も有名な観光スポット「長目の浜」にやって来る。

風と波によって造られた砂州は幅約 50m、長さ約 4km で、いくつかの汽水湖と海との間にある。砂州を見ていると、私は同様な景色の日本三景の天橋立を思い出した。天橋立は幅 20～170m、全長約 3.6km の砂州だから、長さだけなら天橋立よりもこちらの方が長い。

私たちは一番西にある「田ノ尻展望所」で長目の浜を見る。砂州の左は海で、右の池が「なまこ池」になっている。

【田ノ尻展望所から長目の浜を臨む】

なまこ池の向こう「貝池」があり、車を回して 2 つの池の間の陸地から砂州に入り、海辺に出ることができる。それにしても、なまこと貝とは、何というネーミングセンスだ。

海辺にはゴミひとつなく、海は本当に綺麗で透き通っている。南の秘島に来たことを改めて実感することになる。

【左が貝池、右がなまこ池】

【長目の浜の海岸】

東の端の「長目の浜展望所」から見る景色が最も天橋立に似ている。そのためだろうか、秘島ハンターたちは腰を曲げて股の間から長目の浜を見始まる。天橋立の「股のぞき」は天地が逆になるために砂州の根元が天を飛ぶ龍の頭に見えることから始まったらしいが、この長目の浜でも龍に見えないこともない。ただ砂州の幅が天橋立に比べて狭いので、スマートな龍になっており、蛇に近い。やはり天橋立は超えられないか。

【長目の浜展望所から長目の浜を臨む】

■上甑島に泊まる

2 日目の夜は甑島で最も大きな「ホテルエリアワン（Hotel Areaone Koshiki Island）」に泊まる。このホテルは辺ぴな秘島には似合わず、立派な造りをしていて鉄筋コンクリート 6 階建の宿泊棟にサウナ付きの大浴場やカラオケルームのある温浴棟がある。その大浴場は天然温泉になっているから驚きだ。

私たちは温泉入浴を済ませて、近くの食事処「甑におかえり」に繰り出す。この店は昨日泊まった〇△□の主人が教えてくれた店で、酒を飲んで楽しむなら絶対にお勧めと言っていたが、要は呑兵衛には最適ですよと言う意味だろう。

確かに酒（焼酎）の種類も数も半端でなく、甑島名産の逸品もある。昨夜の〇△□でも出てきたタカエビがあり、軽く茹でた方が食べやすくて美味いということで注文する。茹でてあるので頭も柔らかくなっており、頭から食べることができて実に美味い。

【甑におかえりの外観と内部】

この夜の秘島ハンターたちは美味い酒に酔いしれ、羽目を外して飲み過ぎたようだ。宿に帰る途中で道路上に大の字になって寝ている輩もいる。秘島の解放感がそうさせたのだろう。

翌朝のホテルの朝食はビュッフェスタイルながら充実している。甑島名産「きびなご」の塩焼き、そして「あおさの味噌汁」や「さつま揚げ」もある。数種類の海鮮が用意されており、好きなトッピングを選んで作る海鮮丼も美味い。出し汁もあるので海鮮出汁茶漬けもなかなかいける。

■東洋のナイアガラ

翌日は甑島を後にして高速船で本土に戻り、薩摩川内駅で再びレンタカーを借りて鹿児島県伊佐市の「曾木の滝」にやって来る。私はこの滝について存在さえも知らなかったが、例の滝オタクが一押しの滝だと教えてくれた。

私たちが高速船を降りた川内港は川内川の河口にあり、その川内川を遡ると鶴田ダムがあってそのダム湖に注ぎ込むように「曽木の滝」がある。奇岩のそそり立つ滝は、滝幅 210m、高さ 12m もあり、千畳岩の岩肌を削るように流れ落ちる水流とその轟音は、かなり迫力がある。そのためにこの滝は東洋のナイアガラだと看板に書かれている。

しかし私が知る限り、ナイアガラよりも南米のイグアスの滝に似ている。

イグアスの滝は大小 275 本の滝からなる滝の集合体で、その幅は 4.5km もあるから。サイズ的には比較にならないが、大小の滝からできているその造りがイグアスの滝に良く似ている。おそらくイグアスの滝を見たことのない人が名前を付けたのだろう。ここでもネーミングの良し悪しが問われるようだ。

詳しくは旅行記「南米の旅 2020」で紹介しているので、そちらを読んでほしい。

【曽木の滝】

■グランピング

東洋のナイアガラ、いや私が勝手に改めた“東洋のイグアス”を後にして、私たちは鹿児島県の霧島温泉郷に向かう。そして「こしかの温泉」のグランピング施設にチェックインする。

この宿を選んだ理由は、昨年私が別の旅友たちとここを訪れて感動したことを秘島ハンターたちに伝えたところ、是非ともグランピング体験したいという強いリクエストに応えた結果だ。

この施設は完全なプライベート空間が提供されており、他の宿泊客や宿のスタッフとはチェックイン・チェックアウトの時以外には顔を合わすことがない。そのプライベート空間は 3 つのエリアに分かれている。

ウッドデッキエリアは大型ドームテントがあり冷暖房完備で、ベッドがある。ウッドデッキなので焚火スペースもあり、雨が降っても焚火ができるように開閉式の屋根になっている。

ダイニングキッチンエリアはアメリカンサイズの大型 BBQ コンロにダイニングテーブルや冷蔵庫があり、冷蔵庫にはビールやチューハイのアルコール類やソフトドリンク、さらにサラダや豚汁、アヒージョ、そして BBQ 用の上質の肉がたくさんストックされている。もちろん全部飲み放題、食べ放題になっている。

水回りエリアはトイレと洗面所、その他にプライベート温泉施設がある。脱衣所と体を洗う洗い場、中庭に出ると源泉かけ流しの露天風呂、そしてサウナもあり、サウナストーンにアロマ水を掛けるロウリューの道具も用意されている。もちろん水風呂もあるからサウナ後に“整う”ためのリクライニングチェアも置かれている。

とにかく至れり尽くせりの設備になっている。これらについては旅行記「九州バス旅 2023」を参照してほしい。

【ドームテント　手前が焚火スペース】

【BBQ 用の肉と野菜】

まずはビールを一杯飲み干し、入浴・サウナ・ロウリューをこなして BBQ タイムに突入する。温泉後の飲み放題のアルコール、そして海鮮や肉が食べ放題の BBQ は、もはや極楽としか言いようがない。

暗くなってきたので薪に火をつけて、焚火タイムに突入する。島旅にきてキャンプでもしない限り焚火を経験することもないので、貴重な経験になる。秘島ハンターたちは各々思い思いの時間を楽しんでいる。火を見ながら秋の夕べにじっくり飲む酒の味はまた格別だろう。

上を見上げると満点の星が広がっており、白鳥座の一等星デネブが輝いている。白鳥の下を流れる天の川も見える。都会育ちの秘島ハンターの女性は感激して涙を流している。

これらのことは事前に情報を入れておいたが、星座のことまで知らせていなかった。あるいは知っていても現実に体験すると全く異なるのだろう。これもまた偶然と感動の一幕になる。

■そうめん流し

翌日、開聞岳と池田湖を見ようと鹿児島県南部の指宿市やって来る。そして池田湖では大ウナギとイッシーが出迎えてくれる。しかしながら大ウナギは実在するが、イッシーは伝説の恐竜で会うことはないだろう。それにしてもイッシーとは、またネーミングセンスを問われる名前が付いている。

秘島メンバーの１人が「指宿に来たら、“唐船狭そうめん流し”だよ」と言うので指宿市の唐船狭のそうめん流しの店にやってくる。
そうめん流しと言っても縦に切った竹筒にそうめんを流すのではなく、“回転式そうめん流し”というもののので、ここが発祥の地だという。そしてこの店は指宿市の市営施設なので、店の名前が「市営唐船峡そうめん流し」となっているのも面白い。

中に入ると船の形のような高い天井で、その下は柱のない広い空間が広がり、多くのテーブルが置かれている。

私は回転式そうめん流しなるものは初体験で初めて見る光景に驚いてしまう。
テーブルの真ん中にドーナツ状の水槽があり、底から水流を発生させる口があって、水槽は流れるプールのようになって水流が回っている。テーブルの真ん中にそうめんを置いて、回転している水流に各自がそうめん流して食べることになる。
これは子供たちには大受けだろう、大人でも充分に楽しめる。おそらく外国人が体験すると感動するに違いない。

【市営唐船峡そうめん流しの建物内部】

【回転式そうめん流し】

秘島メンバーの１人に左利きがいて、掴みにくそうに箸を操作している。よく見ると水流は食べる人の左から右へ流れており、右利き用にできている。これは確かに掴み難い。
それを改善したのか、ドーナツの輪が二重になっている水槽がある。外側と中側の水流が反対向きに流れるので左利きでも大丈夫になっている。

このようなパフォーマンス優先の食べ物は味がないがしろにされるのだが、そうめんそのものも美味い。スタッフに聞くと、小豆島産のそうめんということで本格的だ。
そうめん以外にマスの塩焼きも付いており、これが新鮮かつ焼きたてなので実に美味い。頭から全て食べてしまった。

天井の高い見事な市営のレストラン、そこで流しそうめんを回転させることや、左右両用のものなど、私は全て予想していなかった。
驚きと感動、これも偶然と感動になる。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合って評価項目を 5 段階で評価し、委員会として評価値を算出する。ただし今回は私 1 人の意見で決定した。

評価項目は泉質、風呂、料理、コスパ、サービス、建物・部屋、立地環境の 7 項目で、平均値を総合点としている。温泉は泉質と風呂で分けており、立地環境はかつて秘湯度という項目だったが、都市型の温泉もあるのでロケーションや景色を総じて評価するようにした。

評価基準は 5 段階としてその定義は、5 は驚き感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、そして 1 は失望落胆としている。

甑島の「ホテル エリアワン」は泉質 4、風呂 4、料理 4、コスパ 4、サービス 3、建物・部屋 5、立地環境 4、総合点 4.00 になった。料理は夕食ではく朝食で評価した。

湧出温度は 23℃、pH は 6.7、泉質は塩化物泉/炭酸水素塩泉（中性、高張性低温泉）だった。

霧島温泉郷「こしかの温泉」は泉質 4、風呂 5、料理 5、コスパ 4、サービス 3、建物・部屋 5、立地環境 4、総合点 4.29 になった。評価ポイントとして露天風呂とサウナ、冷蔵庫の中身、グランピングそのものを評価した。

湧出温度は 49℃、pH は 6.9、泉質はナトリウム-炭酸水素塩泉だった。

■旅の記録

実施は 2024 年 9 月 24 日（火）～27 日（金）の 3 泊 4 日の旅の行程を示す。

・1 日目　羽田発から鹿児島空港までフライト、10 時 30 分に路線バスで薩摩川内駅へ、
シャトルバスで川内港、14 時 30 分の高速船に乗り 15 時 40 分下甑島長浜港到着、
レンタカーを借りて「ナポレオン岩」見物、「釣掛埼灯台」で夕日鑑賞、
宿屋「○△□（まるさんかくしかく）」チェックインして宿で夕食

・2 日目　8 時 30 分に宿を出て「手打港」、「瀬尾の滝」、「鳥の巣山展望所」、「夜萩円山公園」、
中甑島と中島を経由して上甑島に渡り、中甑漁港で観光船を予約したが、
時化によりキャンセル、A コープで弁当を購入し観光船待合室で昼食、
田之尻展望所と長目の浜展望所から「長目の浜」見物、
トンボロビュースポットから里港付近のトンボロを見物
ホテル「エリアワン（Hotel Areaone Koshiki Island）」チェックイン、
食事処「甑におかえり」で夕食

・3 日目　9 時に宿を出て、10 時 30 分長浜港から高速船で川内港へ、シャトルバスにて
薩摩川内駅、レンタカーを借りて「曾木の滝」見物、昼食を抜いて
15 時にグランピング「こしかの温泉」にチェックイン

・4 日目　10 時に宿を出て、「知覧特攻平和会館」、「知覧の武家屋敷」、「池田湖」を見て
「唐船狭そうめん流し」で昼食、JR 最南端駅「西大山」、「長崎鼻」を見て
鹿児島空港でレンタカー返却、打ち上げ後解散、鹿児島空港から帰宅

費用は総合計で約 9 万 3 千円、詳細を以下に示す。6 人で行ったので共通費用は 6 で割っている。

・交通費　41233 円

飛行機代	10770 円×2　（羽田～鹿児島空港スカイマーク便往復）
バス	1650 円（空港→川内市）、150 円×２（シャトルバス往復）
高速船	3440 円×2　（川内港～甑島長浜港往復）
レンタカー	レンタカー20000 円/6、ガソリン 3542 円/6（甑島内）
	レンタカー33110 円/6、ガソリン 4964 円/6（本土）
	有料道路 100 円/6、ETC カード 3460 円/6

・宿代　40997 円

宿屋「○△□」	9300 円
エリアワン	9750 円
こしかの温泉	21847 円（キャンセル保険 1117 円含む）

・昼食　約 4300 円（昼食 3 回分、3 日目は昼食抜き）

・酒代　約 5500 円

2800 円/6（焼酎「五郎」○△□で購入）

約 5000 円（酒、つまみ、食事処「甑におかえり」）

・その他　知覧特攻平和会館　500 円